

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	三宅わたる議員	
情報元	福井県議会令和7年9月11日速報版 P27～30	
入手日	令和7年9月11日	
作成者	所属： 口池田中学校PTA	氏名： 西野 貴幸
内容		
<p><b>【三宅わたる議員(ふくいの党)】</b></p> <p>①学校の保護者対応を担う専門窓口の整備について</p> <p>質問:学校の保護者対応負担軽減のため、専門窓口設置や支援体制の構築を提案。</p> <p>回答者:藤丸教育委員会教育長</p> <p>回答概要:藤丸教育長は、天理市の取組を参考に、保護者対応の負担軽減に向けた方策を検討すると述べました。</p> <p>具体的には、スクールロイヤー制度を活用し、法的アドバイスを通じて教員が自信を持って対応できる環境を整備していることを説明。また、過度な要求を抑制するため、保護者対応ガイドラインを福井弁護士会と協力して作成予定であることを明らかにし、今後も市町や関係機関と協議しながら負担軽減策を進めると述べました。</p>		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	北川博規議員	
情報元	福井県議会令和7年9月11日速報版 P56～64	
入手日	令和7年9月11日	
作成者	所属： 口池田中学校PTA	氏名： 西野 貴幸
内容		
<p><b>【北川博規議員(民主・みらい)】</b>            質問:北川議員(要約)            ①肢体不自由特別支援学級の現状と課題について            肢体不自由特別支援学級の設置状況や今後の方向性について、県の認識を問うとともに、施設・設備の体制づくりと指導体制の改善について課題を指摘</p> <p>回答者:藤丸教育長(要約)            県内には現在専門の学級はないものの、16名の生徒が通常学級等で学んでおり、個別の支援を行っているという回答。また、教員免許の保有率が全国平均を上回るなど、今後も学校の施設・設備整備や教員の専門性向上に努め、指導体制の充実に努めていることを示しました。</p> <p>質問:北川議員(要約)            ②不登校支援におけるメタバースの運用について            急増する不登校児童生徒支援のため、現在の政策を進めつつ、メタバースの導入を県が主体となって検討すべきではないか。また、タブレットやオンラインを活用したフリースクールのような「学びのサードプレイス」の設置についてを質問</p> <p>回答者:藤丸教育長(要約)            ア)メタバースの導入について:            ・他県の事例を挙げ、メタバースの運用には多くの人材と財政的負担が必要であると指摘。            福井県では不登校の割合が全国一低く、多くの生徒が校内サポートルームや教育支援センターに通えていることから、現時点でのメタバース導入の必要性は低いとの見解を示しました。</p> <p>イ)タブレット等の活用について:            ・現在も、教室と家庭をオンラインで繋いだ授業配信や、デジタルドリルを活用した家庭学習環境の整備を進めていると説明。            ・スクールカウンセラーへのタブレット配備により、自宅での教育相談も可能になっていると述べました。今後もデジタル教材の整備と普及を図り、在宅でも学習機会が確保できるよう環境の充実に努める考えを示しました。</p> <p>質問:北川議員(要約)            ③高校授業料無償化について            高校授業料無償化が公立高校の志願者数に与える影響と、それに伴う今後の公立・私立高校のバランスのあり方について</p> <p>回答者:藤丸教育長(要約)            ①今後の公立・私立高校のバランスについて:            福井県は私立高校の授業料無償化を拡充。県立高校の志願倍率は1倍を維持し、無償化の影響は限定的と考えています。今後も公立と私立のバランスに留意し、生徒の学びを確保する。            ②公立・私立高校生徒1人あたりの教育費について:            2023年度の調査によると、福井県の公立高校生徒1人あたりの公費負担額は約135万円、私立高校は約66万円です。この差は主に教職員人件費や施設整備費によるもので、2026年度には国の就学支援金上限額引き上げで差が縮小する見込みです。            ③タスクフォースの立ち上げについて:            高校授業料無償化の影響は限定的としつつも、今後子どもの数が減少するため、人口減少時代に対応した高校のあり方を検討する必要があると述べました。また、県立高校の特色化や設備改善に努め、必要に応じて公立・私立高校の役割分担について意見交換をしていく考えを示しました。</p>		

## 外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	南川直人議員	
情報元	福井県議会令和7年9月11日速報版 P64～71	
入手日	令和7年9月11日	
作成者	所属： 口池田中学校PTA	氏名： 西野 貴幸
内容		
<p>【南川直人議員(自民党福井県議会)】 質問:南川議員(要約) ①教育への投資～本県児童・生徒の学力や、水泳の実技指導の現状など～ 日本の教育費や学力、水泳指導の方針についてを質問 1.教育費については、地方教育費調査の結果と比較して、福井県の児童生徒一人あたりの教育費が全国でどの程度の水準に変化したのか</p> <p>回答者:藤丸教育長(要約) 地方教育費調査によると、福井県の児童生徒一人あたりの教育費は、小学校が128万円(全国7位)、中学校が147万円(全国6位)、高校全日制が135万円(全国21位)となり、令和3年度より全ての区分で順位が上昇しています</p> <p>2. 学力テストの結果については、全国的に成績が低下している中で、福井県の子どもの成績をどのように分析し、受け止めているか</p> <p>回答者:藤丸教育長(要約) 福井県の児童生徒の学力について、全国学力・学習状況調査の結果で全教科3位以内となるなど、全国トップクラスを維持していると回答しました。また、正答率だけで学力が下がったと一概には言えないと回答。</p> <p>3.水泳の実技指導については、暑さや教員の負担から取りやめる学校が増えている現状に対し、県内小中学校の方針と、学校プールを水泳授業以外にどのように活用していくか</p> <p>回答者:藤丸教育長(要約) 水泳の実技指導は市町や各学校が判断しており、県内では小学校の全校と中学校の一部が実施していると回答しました。また、水難事故防止のため、可能な限りの実技指導実施が望ましいとの認識を示しました。プールは、夏季休業中に開放されていると回答。</p>		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	藤本一希議員	
情報元	福井県議会令和7年9月12日速報版 P1～10	
入手日	令和7年9月15日	
作成者	所属： 口名田小PTA(小浜市連副会長)	氏名： 大江 建太
内容		
<p><b>【藤本一希議員(越前若狭の会)】</b></p> <p>①日本に誇りを持てる教育の推進について</p> <p>質問:現代の「見えない戦争」に対し、子どもたちが自ら考え向き合える教育の必要性について確認。地域の歴史・文化教育の重要性を強調。</p> <p>回答者:藤丸教育委員会教育長          回答概要:小学校の社会科指導要領では、古事記・日本書紀など歴史書から国家形成を学習させており、ヤマトタケルの神話などを通じて歴史と伝統への関心を高める教育を推進している。福井の伝統精神「文武不岐(学問と武道が一体)」も教育の根底を成し、学力・体力ともに全国トップクラスの教育県であることを説明した。</p> <p>②部活動の教育的役割と地域展開について</p> <p>質問:部活動が生徒の人格形成や健康な心身の育成に不可欠であるとの考え方と、部活動の学校外地域展開時の維持向上についての見解。学校から部活動がなくなった場合の生徒への影響も質問。</p> <p>回答者:藤丸教育委員会教育長          回答概要:部活動は学校教育の一環であり、学習意欲や責任感、連帯感の涵養に資する場である。地域クラブに移行してもその教育的意義を引き継ぐよう県は支援しており、今年度は県全体で9割以上の地域展開を目指している。地域の実情や意向に沿って支援を継続する方針と述べた。</p> <p>③子育て支援の具体的施策について</p> <p>質問:保育所の充実、子育て支援センターの機能強化、待機児童解消、父親の育児参加促進などの状況と計画を質す。</p> <p>回答者:福井県子育て支援部門担当者</p> <p>回答概要:待機児童対策や支援センター機能の強化について、市町と連携し計画的に拡充を図っている。また、父親の育児参加促進には啓発や制度利用の促進を進めているとの説明。地域差の解消にも取り組みを行い、均等な支援体制を構築している旨回答。</p>		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	酒井秀和議員	
情報元	福井県議会令和7年9月12日速報版 P29・34・35	
入手日	令和7年9月15日	
作成者	所属： 口名田小PTA(小浜市連副会長)	氏名： 大江 建太
内容		
<p><b>【酒井秀和議員(自民党福井県議会)】</b>            質問:酒井議員(要約)            情報モラル教育について            「子どもたちが安全かつ適切に情報を扱えるよう、教育のさらなる充実が必要」と質問。道徳教育とアンガーマネジメント教育について            「人間関係のトラブル防止や自己感情コントロールのために両教育の重要性を認識し、県としての推進を求めた」と要望。</p> <p>回答者:藤丸教育長(要約)            情報モラル教育            SNSや動画投稿によるトラブルや情報漏洩のリスクに対応するため、警察や事業者と連携し「ひまわり教室」などを実施。児童生徒からも悪口や噂の拡散をしないなどの意識が高まっていることが確認され、未然防止に効果があるとしました。また、ルール徹底だけでなく、道徳教育を通じて他者への思いやりや言動の影響を考える心を育成することが重要。</p> <p>道徳教育            小中学校全学年で具体的事例を用いた授業を行い、役割演技や体験学習を通して他者の立場に立つ力を養成。さらに県独自の「ポジティブ教育」では、互いを尊重する話し方や感情理解のスキルを育て、行事で賞賛し合う活動を通じて自己有用感や自尊感情を高めている。</p> <p>アンガーマネジメント教育            ポジティブ教育の柱であるレジリエンス教育の一環として導入。学年に応じて怒りの抑え方や気晴らし、つらい感情からの回復方法を学び、体系的に心を育てます。これらを組み合わせることで、子どもたちが健やかな心身を育み、豊かな人生を歩むための人間性向上につなげていく。</p>		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	中村綾菜議員	
情報元	福井県議会令和7年9月12日速報版 P40～44	
入手日	令和7年9月15日	
作成者	所属： 口名田小PTA(小浜市連副会長)	氏名： 大江 建太
内容		
<p>中村綾菜議員の質疑ポイント                  中村議員は、子どもの声を政策に反映させ、子育て支援や教育を子ども本人の成長と幸福を重視する方向へ転換すべきと主張しました。主な質問は以下の通りです。</p> <p>女子の理系進学促進とグローバル人材育成の強化</p> <p>「治す」から「暮らす」へ、心に寄り添う教育と本人らしい生き方の支援</p> <p>保護者支援を超え、子ども本人への多様な支援施策拡充の必要性</p> <p>地域資源を活かした学びの場(高設塾等)の充実</p> <p>回答概要                  知事 杉本達治氏                  若者の意見を聞く年代別意見交換会や「こども応援ディレクター」配置で子どもの声を政策に反映する仕組みを整備している。</p> <p>女子の理系進学支援やグローバル人材育成については、関係機関との連携を進め支援策拡充を検討。</p> <p>オーガニック給食導入や給食費無償化を検討、子どもの健康と育成支援を強化。</p> <p>子ども本人を中心とした包括的支援へ転換を目指す。</p> <p>教育長 他                  地域活動を活用した「高設塾」などの学びの場を増やし、ふるさと意識や社会参加意欲を高めている。</p> <p>障害の有無にかかわらず、個々の心に寄り添い本人の自立を支援する教育を推進。</p> <p>女子理系進学支援には体験学習や留学機会拡大で対応。</p>		

## 外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	福野大輔議員	
情報元	福井県議会令和7年9月12日速報版 P56～58	
入手日	令和7年9月15日	
作成者	所属： 口名田小PTA(小浜市連副会長)	氏名： 大江 建太
内容		
<p><b>【福野大輔議員(自民党)】</b> 福野議員は子どもたちの声を聞き支える政策の現状と課題を質問した。知事は、福井県の子育て政策について、「日本一の不妊治療の充実」「男性育休支援」「子どもの保育料・高校授業料無償化」などの先進的な施策を推進し、出生率は全国トップクラス、待機児童もゼロを維持していると説明した。県民アンケートでは子育て政策の高評価が得られているものの、子どもを持ちたい希望と実際の差異や貧困、一人親家庭、障がい児支援などの課題も認識し、次期子ども・子育て計画で多様な家庭への伴走支援を強化する意向を示した。</p> <p>教育長はスクールカウンセラーについて、92名が県内全公立小中学校に配置されており、児童生徒や保護者の相談に対応し助言を行っている」と説明。さらに配置時間の把握や国からの予算獲得に努めているとし、スクールカウンセラーの活動と行政支援の重要性を強調した。</p> <p>福野議員は子ども食堂や校内サポートルームでの支援の現場感を踏まえ、心の声を聞く場の確保と行政支援の拡充を要望した。知事らは、子どもと子育てに関わる多様な支援体制の整備を今後も推進し、社会全体で子育ての喜びを育てていくと回答した。</p>		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	時田和一良議員	
情報元	福井県議会令和7年9月12日速報版 P60～63	
入手日	令和7年9月15日	
作成者	所属： 口名田小PTA(小浜市連副会長)	氏名： 大江 建太
内容		
<p><b>【時田和一良議員(自民党)】</b>  時田議員  ・高校生議会での「ふるさと福井への地元愛を育む政策」に関する提言を紹介し、若者の地元愛醸成を重視  ・地元から県外へ出る学生の割合増加を踏まえ、地域や学校での故郷教育の実効性強化を要望  ・現行の故郷教育では体験や実感に差があり、魅力の伝え方や現場での取り組み充実が課題と指摘</p> <p>杉本知事回答  ・不妊治療の充実、男性の育休推進、高校授業料無償化など多角的な子育て支援策の成果説明  ・地域の農業支援や地域活性化政策と連携し、若者の地域定着促進を推進中と回答</p> <p>教育長回答  ・小中学校での地域学習、故郷福井CMコンテスト等での参加状況や実践的な故郷教育の概要説明  ・全公立小中学校に配置のスクールカウンセラーによる児童・保護者支援体制を強化中と報告</p> <p>時田議員  ・多様な居場所づくりや保護者サポートの重要性を指摘し、行政の支援強化を要望</p> <p>知事ら回答  地域コミュニティと連携し、若者の地元定着と子育て環境の充実を総合的に進める方針を表明</p>		